

## 第2回 学校再編検討会

### 議事概要

日時：令和3年6月23日（水）

場所：市役所3階 第1会議室

14：43～15：55

### 1 あいさつ（小林教育長）

教育委員が学校再編についてどのように考え判断したのか、十分に説明責任が果たせるものでありたい。

今回は再編案策定までの検討会のスケジュールを資料として配布した。

本日は、答申の一番の土台となっている小中一貫教育の方向性について判断をお願いしたい。

各々本音を出していただき、しっかりとした議論にしたい。

この検討会の検討経過について、議事の概要をHPで公開する由、議会で答弁を行った。その他詳細な点については、後程報告したい。

### 2 協議事項

(1) 全体日程の確認について 資料1「学校再編検討会今後の進め方について」に基づき事務局説明。

(2) 議会一般質問の報告について 資料2「令和3年6月定例会一般質問より」に基づき事務局説明。

・大まかな流れは資料のとおり進めて行き、変更事項があればその都度協議する。

(3) 小中一貫教育の方向性について 資料3「小中一貫教育について」に基づき先生2名が説明。

・「小中一貫教育」という表現の中には、幅広い教育のありようが含まれている。小諸市では、まずは「小中連携」の形をとって進めていけば良いのではないか。

・子どもたちが小学校から中学校へ進級することは、一つの「節目」であり、それを自覚していくことがとても重要だ。小中一貫教育を考える上で「節目」を用意できるかどうかは一番の課題になる。

・「併設型」、「分離型」「義務教育型」と、小中一貫教育には様々な形態があるが、小中学校それぞれが、ある程度独立した形を持ったうえで連携し、教育活動を行っていくことが望ましいのではないか。現在の学校の形をできるだけそのまま維持することが望ましい。

- ・小中一貫教育の是非を考えるうえで、子どもたちの人数も大きな要素になる。子どもたちの状況に応じた教員のきめ細かな指導が必要になる。芦原、小諸東両中学校では生徒規模が異なるため、小中一貫教育ができるところ、すべきでないところが出てくると考える。
- ・近年ようやく小中一貫教育の課題点についても広く語られるようになってきた。今の時点で安易に小中一貫教育制度に飛びつくのは危険ではないかと思う。加えて、学校目標まで小中で統一してしまえば、校長先生の存在意義やそれぞれの学校がユニークな教育実践を進めてきた梅花教育の意味が無くなってしまう。小学6年と中学1年のつなぎ目の連携強化や教育理念について、小中学校の教員が共通理解を持つことを大事にしていきたい。
- ・「小中一貫教育」という言葉を使うと「義務教育学校」のようなイメージが出てきてしまう。誤解を避けるためにもあえて小中一貫教育という表現ではなく、「小中連携して学びの場を整え、教育理念を統一して取り組む」と表現すればよいのではないか。
- ・この場に出た「連携」も広い意味で捉えれば小中一貫といえると思っているが、多くの市民の皆さまは、「小中一貫教育」と聞くと「義務教育学校」のようなイメージを持ってしまう。「連携による教育」を、「小中一貫教育」とは別の言葉を使うなどして、わかりやすく丁寧な説明をしていくことが必要だ。

⇒「小中一貫教育」という表現ではなく、「小中の連携による教育」を推進していくこととしたい。

#### (4) その他

○次回：7月5日（月）開催予定